

シリーズ

“キラリ企業”

の現場から 第105回

会社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第105回目は、Made in Japanにこだわり、高い技術でソフトビニール製のおもちゃやドールと呼ばれる人形の素体やフィギュアの製造を行っている株式会社オビツ製作所(葛飾区)をご紹介します。

同社は、当公社の地域資源活用イノベーション創出助成事業(注1)に採択され、等身大の救助訓練用特殊マネキン“オビツボディタフネス”を開発されました。

「知る人ぞ知る！下町にあるドール・フィギュアの製造企業」

株式会社オビツ製作所

部品の輸出から観光物産の製造へ

株式会社オビツ製作所(以下同社)は、昭和41年11月、尾櫃三郎前社長が勤務していたおもちゃ屋から独立し、創業された。創業当時の日本は、輸出品の大部分をおもちゃが占めており、このような状況の中で同社は、おもちゃの部品を製造し、輸出していた。当時、この業績は通産省から“輸出貢献企業”として2度の表彰を受けるほどのものであった。

しかし、おもちゃ部品の輸出は長くは続かなかった。昭和46年以降、突然の円高によって輸出が落ち込んだのである。また、昭和40年代は日本の生活も豊かになり旅行を楽しむ人たちが増え、観光地がにぎわうようになった時代である。そんな中、知人から観光物産の間屋を紹介され、観光物産の可能性を感じた同社は、スラッシュ成型(注2)を用いたお土産品の製造を始めたのである。この時、主力商品となる“キューピー人形(オビツキューピー)”の製造も開始し、現在まで数百万個を売るヒット商品となった。社長の尾櫃充代氏によれば、「キューピー人形は時代に左右されることなく売れる商品」ということで、今でも皆様に愛され続けている。

創業者のこだわり

現在の社長は創業社長の妻である充代氏である。充代氏は、前社長の三郎氏のことを「一徹な性格であった」と語る。その三郎氏は2つのこだわりを持っていた。

まず、一つ目は、スラッシュ成型による製品の製造である。同社の製品の大半は、スラッシュ成型という成形方法を用いて製造を行っている。スラッシュ成型は、高価な金型

を必要とするインジェクション成型(射出成型)(注3)に比べると、製造期間も短く、樹脂と樹脂の繋ぎ目が生まれにくいという利点がある。

反面、天候や気温によって熱する温度と時間を変える必要があるなど、生産には高い技術を要し、大量生産には向いていない。さらには、こうした技術を身に付けるには数年以上かかり、職人の勤が商品の出来栄を左右することになる。

二つ目は、Made in Japanへのこだわりである。これまで多くの企業が製造拠点を諸外国へ移してきた。同社にも某大手玩具メーカーから「海外に製造を移さないか」という誘いがあったこともある。しかし、三郎氏は「No」という回答をした。「職人的な技術を必要とするスラッシュ成型は、日本でできない」「日本の職人さんの生活を守りたい」というのが前社長の持論だったのである。



オビツボディ

事業承継と創業者の死去

平成23年4月に、前社長と現社長の次女である牧有里子氏(現副社長)が、大手音楽関連企業を辞めて同社に入社をした。しかし、畑ちがいの業界で仕事を続けてきた牧氏にとっては、何もかもが初めての経験。まず「ものづくりとは？」というところから理解することが必要であったと語る。

「大手企業は、会社の看板を背負って仕事をするのでいろいろな意味で余裕があったが、中小企業だとミスが許されず余裕もなく、業務の全てを一通り把握することが必要」という。

一方、大手企業での経験が役立ったこともある。著作権の関連だ。副社長は大手企業時代、契約関係の業務も行っていたこともあり、著作権などの知的財産の大切さがよくわかっていた。こうした前職での経験は現在でも商品販売の中で活かされている。

おもちゃの製造・輸出から始まった同社は、本格的に海外へ進出している。平成24年4月にはシアトルで開催されたアニメイベントに招待され、前社長自らが自社やスラッシュ成型について講演を行った。オビツ商品の良さが世界に広まったことで、海外からのリピート注文も得ている。

そんな折、平成24年10月、前社長の三郎氏が急逝。気骨ある前社長が一身に背負ってきた企業に大きな危機が訪れた。

「私たちがもうダメだと思えば、社員の気持ちも揺らぎます。私たちが一生懸命に頑張れば、社員は後継者を盛り立ててくれるものです」と充代社長は振り返る。

こうした想いに応えるように、充代社長と牧副社長の体制となってから、ある面白い新商品を生み出すことに成功した。それは“フル可動QP”である。オビツボディ(注4)をベースに、各関節が自在に動くキューピー人形である。フル可動QPは、面白いことを追及する社員の柔軟な発想から生まれた商品となった。



フル可動QP

新たな製品分野への進出

同社は、当公社の助成事業である「地域資源活用イノベーション創出助成事業」の平成23年度第1回(6号)に採択され、関節と首が自由に曲がる救助訓練用のマネキンを開発した。

それまで、消防署等の救助訓練で使用されてきた人形は、人の形をした単なる砂袋で、人にはほど遠いものであった。そんな中で、身長や体重、関節の曲がりや皮膚の感触までを再現された人形は画期的であった。

開発に当たっては、東京消防庁からのアドバイスを受けるなどをして、クオリティの高い製品に仕上げていった。もちろんMade in Japanである。開発後、この人形は“オビツ

ボディタフネス”と名付けられ、東京消防庁に納品され、日々の訓練に使用されている。

さらなる会社の発展

スラッシュ成型の技術は残していかなければならないという強い思いは「Made in JapanのObitsu」として今も世界に発信され、同社は現在“世界のObitsu”になりつつある。



牧有里子副社長(左)と尾櫃充代社長

今後について伺うと、これからはものづくりの基盤技術を活かし、ホビー分野だけでなく、実用品の様々なジャンルの商品を作っていきたいと副社長は話す。

“マニアは本物を求めている”という三郎氏の言葉の下、これからもクオリティの高い人形の製造を続けていくとのこと。50年前に東京の下町で生まれた一つの町工場が、世界に向かって雄飛していくことを期待したい。

(総合支援課 石田 翔)

- (注1) 地域資源活用イノベーション創出助成事業…
東京都の地域資源の活用または東京都にある都市課題を解決する事業を始める中小企業等を支援する助成事業。
- (注2) スラッシュ成型…
塩化ビニールを金型に入れて加熱し、塩化ビニール樹脂の厚さが2ミリ程度になったところで、不要な樹脂を取り出す。その後、再度加熱を行い冷却の後、金型から樹脂を抜きだす成形方法。
- (注3) インジェクション成型…
プラスチック等の材料のチップまたは粉末を熔融し、一定の型に射出して成形する方法。
- (注4) オビツボディ…
オビツ製作所が製造するソフトビニール等を使用して製造した人形。関節が動くことで自由なポージングが可能である。

企業名：株式会社オビツ製作所
 代表者：代表取締役 尾櫃 充代
 資本金：1,110万円 従業員数：30名
 本社所在地：東京都葛飾区金町4-14-8
 TEL：03-3600-2561
 FAX：03-3608-7745
 URL：http://www.obitsu.co.jp